

## 若戸

## 基礎データ

【人口】1,920人(H21.11.30現在)  
 【世帯】497世帯(H21.11.30現在)  
 【面積】約810ha  
 【公共施設】若戸保育園・若戸小学校・赤羽根漁港  
 【史跡】越戸大山原生林・鬼墮古墳群・小今口遺跡  
 【主な産業】農業・漁業

●小山から太平洋を望む

## 校区の特徴

若戸校区は、北側に半島を縦断する山並が連なり、南側に太平洋が広がる自然豊かな地域です。

海岸付近を東西に走る国道42号沿いに、東から池尻・若見・越戸の3地区が並んだ、施設園芸が中心の温暖な農村地域です。

隣近所の結び付きが強く、世代間の交流も活発で、防災訓練や清掃活動などの地域活動へも、住民が積極的に参加しています。

校区の歴史は、縄文時代の終わ



りごろ(約2300年前)から始まりました。小今口遺跡からはこの時代の石器や土器などが発見され、当時の人々の営みがうかがえます。また、今から1300年ほど前の古墳時代に、この地域を治めた豪族の墓である珍平古墳、鬼墮古墳が発見されています。このように古くから人々が暮らした地域です。

## 地域の自然

校区の西側に位置する大山は、高さ328mで田原市最高峰です。南側の山すそに位置する白山比咩神社には、樹齢100～200年を超える多くの巨木があり、「たはらの巨木・名木100選」にも9本が選ばれています。ここは大山原生林として、田原市内では唯一の「三河湾国立公園第1種特別地域」に指定され保護されています。



●白山比咩神社のヤマモモ

太平洋に面した海岸は、アイナメ・カサゴ・キスなどを狙う絶好の投げ釣りのポイントとなっています。さらに、近年はサーフィンを楽しむ若者も多く訪れています。

また、「渥美半島キラリ100

選」に選ばれた「竜宮」という岩場があり、ここには、かつて塩を作るために海水を汲んでいた井戸がありましたが、現在は砂浜の侵食により水没しています。



●越戸海岸

## お花畑と夜景

「常春の里」の気候を利用して、明治末期から栽培された「渥美絹莢豌豆」の連作を防止するため、昭和初期からキンセンカ・ノボリフジなど、露地の花き栽培が盛んとなりました。これらはかつて、「お花畑」として渥美半島の印象的な景観となっていました。現在は施設園芸が盛んとなり、電照菊が闇に浮かぶ幻想的な夜景に移り変わっています。



●かつての「お花畑」(昭和52年)